

君津市小中学校における水泳指導とプール施設のあり方に関する基本方針〈概要版〉

1 策定の目的

君津市の水泳指導およびプール施設のあり方を、「教育効果の維持向上」、「児童生徒の安全面・衛生面の確保」、「施設の維持・管理」の視点から、より質の高い水泳指導を目指し基本方針を策定した。

2 水泳指導の現状と課題

(1) 水泳指導の授業時数について

○小学校では、10時間以上。

○中学校では、プール施設が使用できる学校は実技・理論学習合わせて9時間程度、プール施設が使用できない学校は理論学習を3時間程度。

(2) 指導面について

○小学校では、複数学年で授業を行ったり、能力別指導を行ったりしているが、教員数に限りがあることや高い指導スキルをもった教員が少ないことから泳力の差が出ている。

○中学校では、生徒の泳力差が更に広がり、能力に応じた指導が難しくなっている。また、理論学習における救命救急法の実習のための教具の確保や最新の専門的な知識が必要となっている。

(3) 施設面について

○老朽化が進行し、使用できないプール施設が増えている。

○修繕箇所が増え、大規模改修・改築が同時期に集中することも想定できる。

3 今後の水泳指導に向けて

久留里市民プール・民間プールを有効に活用するとともに、比較的新しい学校プール施設（拠点校）への集約を行い、安全で質の高い水泳指導を進めていく。

(1) 小学校期の水泳指導充実のために、久留里市民プール・民間プール、拠点校へ集約して実施する。

効果的な指導のため、指導補助員やインストラクターを活用する。

(2) 中学校では、水泳に関する理論学習へ段階的に移行していく。

4 学校プールの集約化について

○学習時間確保のため、比較的短時間で移動できる施設へ集約。

○比較的新しく状態の良い学校プールは、拠点校として利用を継続していく。

※プール施設の集約については当面、以下表のとおり集約を進める。

<令和2年度以降の施設集約イメージ>

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
八重原小	八重原小（拠点校）		
北子安小	八重原小		
外箕輪小	外箕輪小（拠点校）		
貞元小	貞元小（拠点校）		
周西小	外箕輪小・貞元小	民間施設等	
南子安小	南子安小	民間施設等	
大和田小	民間施設等		
坂田小	民間施設等		
周南小	周南小（拠点校）		
中小	周南小	（統合：小糸小） 周南小	
小糸小	久留里市民プール		
清和小	久留里市民プール		
小櫃小	小櫃小	久留里市民プール	
久留里小	久留里市民プール	（統合：上総小） 久留里市民プール	
松丘小	久留里市民プール		
坂畑小	久留里市民プール		
君津中	理論学習		
八重原中	八重原中（今後理論学習へ移行）		
周西中	理論学習		
周西南中	周西南中（今後理論学習へ移行）		
周南中	理論学習		
周東中	理論学習		
上総小櫃中	上総小櫃中（今後理論学習へ移行）		

※学校再編の進捗状況や久留里市民プール・民間プール施設の状態等により変更する。

1校1プールの水泳指導とプール施設を集約した場合を、5年間を検証期間としてライフサイクルコストを比較すると、

<1校1プール>	<プール施設を集約>
1年間にかかる維持管理費 1,060万円 <small>(水道費+ろ過装置保守点検費+水質検査費+消毒費+修繕費)</small>	1年間にかかる経費の平均 1,620万円 <small>(施設使用料+指導補助員・インストラクターの件費+児童輸送費)</small>
さらに 大規模改修： 1,470万円 改築：1億6,000万円 ※大規模改修2校、改築4校	拠点校4校の維持管理費 大規模改修1校
5年間で7億3,000万円	5年間で9,600万円

集約は、施設使用料や輸送費がかかるが、**5年間で約6億3,400万円の経費削減。**

5 まとめ

発達段階を考慮し、小学校期の泳力の向上と中学校期の理論学習により、9年間を見通した水泳指導につなげていく。

- 小学校 → 泳力の向上を図り、プール施設の集約化および指導補助員の配置やインストラクターの活用を進める。
- 中学校 → 小学校での泳力向上をベースに、安全に関する知識と技能を身につける理論学習に移行していく。